



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

令和7年度

国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務

積算書

(当初)

九州農政局
北部九州土地改良調査管理事務所

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務

業務別業務名: 調査業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単 - 1号 ***						
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1.000	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	10.00人				
	5)技師Bの人数	10.00人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	10.00人				
R04004	技師(A) 外業	10.000	人	59,600	596,000	
R04005	技師(B) 外業	10.000	人	48,500	485,000	
R04007	技術員 外業	10.000	人	36,100	361,000	
	合 計				1,442,000	算出数量 1.000 式
	単 価		式		1,442,000	
*** S単 - 2号 ***						
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1.000	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.00人				
	5)技師Bの人数	0.40人				
	6)技師Cの人数	0.40人				
	7)技術員の人数	0.40人				
R04005	技師(B) 外業	0.400	人	48,500	19,400	
R04006	技師(C) 外業	0.400	人	40,300	16,120	
R04007	技術員 外業	0.400	人	36,100	14,440	
	合 計				49,960	算出数量 1.000 式
	単 価		式		49,960	
*** S単 - 3号 ***						
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1.000	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	1.00人				
	5)技師Bの人数	0.00人				
	6)技師Cの人数	1.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04004	技師(A) 外業	1.000	人	59,600	59,600	
R04006	技師(C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
	合 計				99,900	算出数量 1.000 式
	単 価		式		99,900	
*** S単 - 4号 ***						
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1.000	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.00人				

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務

業務別業務名: 調査業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	5)技師Bの人数	6.00人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	6.00人				
R04005	技師 (B) 外業	6.000	人	48,500	291,000	
R04007	技術員 外業	6.000	人	36,100	216,600	
	合計				507,600	算出数量 1.000 式
	単 価		式		507,600	
	*** S単 - 5号 ***					
S63007	移動に係る技術者の基準日額		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.56人				
	5)技師Bの人数	6.13人				
	6)技師Cの人数	5.99人				
	7)技術員の人数	5.69人				
R04004	技師 (A) 外業	0.560	人	59,600	33,376	
R04005	技師 (B) 外業	6.130	人	48,500	297,305	
R04006	技師 (C) 外業	5.990	人	40,300	241,397	
R04007	技術員 外業	5.690	人	36,100	205,409	
	合計				777,487	算出数量 1.000 式
	単 価		式		777,487	
	*** S単 - 6号 ***					
S65001	現地踏査		km		1.000 日	歩A 当たり算出
	現地踏査 線の構造物			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)対象構造物	線の構造物		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		
R04004	技師 (A) 外業	1.000	人	59,600	59,600	
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費	0.014		144,200	2,019	
Y00004	材料費	0.008		144,200	1,154	
	合計				147,373	算出数量 6.000 [各単位]
	単 価		[各単位]		24,562	
Y00001	単位					
	*** S単 - 7号 ***					
S65002	近接目視		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	近接目視 線の構造物,3,280㎡			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)対象構造物	線の構造物		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)作業対象面積	3,280㎡		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務

業務別業務名: 調査業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
Y00004	機械経費 3.0%	0.030		124,900	3,747	
Y00004	材料費 2.0%	0.020		124,900	2,498	
	合計				131,145	算出数量 1.000 式
	単価		式		860,311	
	*** S単 - 8号 ***					
S65003	コンクリート強度推定調査(水路トンネル) コンクリート強度推定調査		測点		1.000 日	歩A 当たり算出
	1)強度推定調査	計上する		時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04006	技師(C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 10.0%	0.100		76,400	7,640	
	合計				84,040	算出数量 20.000 測点
	単価		測点		4,202	
	*** S単 - 9号 ***					
S65003	コンクリート強度推定調査(水管橋) コンクリート強度推定調査		測点		1.000 日	歩A 当たり算出
	1)強度推定調査	計上する		時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04006	技師(C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 10.0%	0.100		76,400	7,640	
	合計				84,040	算出数量 20.000 測点
	単価		測点		4,202	
	*** S単 - 10号 ***					
S65009	中性化深さ試験(ドリル法)(水路トンネル) 中性化深さ試験(ドリル法)		箇所		1.000 日	歩A 当たり算出
	1)中性化深さ試験(ドリル法)	計上する		時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04005	技師(B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04006	技師(C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
Y00004	機械経費 10.0%	0.100		88,800	8,880	
Y00004	材料費 5.0%	0.050		88,800	4,440	
	合計				102,120	算出数量 12.000 断面
	単価		断面		8,510	
	*** S単 - 11号 ***					
S65009	中性化深さ試験(ドリル法)(水管橋) 中性化深さ試験(ドリル法)		箇所		1.000 日	歩A 当たり算出
	1)中性化深さ試験(ドリル法)	計上する		時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	

事業名		国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名		菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務				
業務別業務名: 調査業務						
コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
	*** T単 - 1号 ***					
T00001	管厚及び塗膜厚計測		測点		10.000	歩A 当たり算出
S63007	水管橋上部工 設計労務(直接人件費外業)	1.000	式	99,900	99,900	S単 3号
Y00004	雑品	0.340		99,900	33,966	
	合計				133,866	算出数量 10.000 測点
	単価		測点		13,387	
	*** T単 - 2号 ***					
T00002	現地踏査		km		10.000	歩A 当たり算出
S63007	水管橋 設計労務(直接人件費外業)	1.000	式	1,442,000	1,442,000	S単 1号
Y00004	雑品	0.022		1,442,000	31,724	
	合計				1,473,724	算出数量 10.000 km
	単価		km		147,372	
	*** T単 - 3号 ***					
T00003	近接目視		m ²		100.000	歩A 当たり算出
S63007	水管橋 設計労務(直接人件費外業)	1.000	式	49,960	49,960	S単 2号
Y00004	雑品	0.050		49,960	2,498	
	合計				52,458	算出数量 100.000 m ²
	単価		m ²		525	
	*** T単 - 4号 ***					
T00007	漏水量調査		測点		10.000	歩A 当たり算出
S63007	流量観測(電磁流量計) 設計労務(直接人件費外業)	1.000	式	507,600	507,600	S単 4号
Y00004	雑品	0.250		507,600	126,900	
	合計				634,500	算出数量 10.000 測点
	単価		測点		63,450	
	*** T単 - 5号 ***					
T00008	漏水量調査		測点		10.000	歩A 当たり算出
S63007	流量観測(超音波流量計) 設計労務(直接人件費外業)	1.000	式	507,600	507,600	S単 4号
Y00004	雑品	0.250		507,600	126,900	
	合計				634,500	算出数量 10.000 測点
	単価		測点		63,450	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務

業務別業務名: 設計業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単 - 1号 ***						
S63003	施設の影響度評価(水路トンネル) 設計労務(直接人件費内業)		式		1,000	歩A 当たり算出
				時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.84人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	1.26人				
	5)技師Bの人数	0.84人				
	6)技師Cの人数	0.42人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師					
		0.840	人	66,900	56,196	
R04004	技師(A)					
		1.260	人	59,600	75,096	
R04005	技師(B)					
		0.840	人	48,500	40,740	
R04006	技師(C)					
		0.420	人	40,300	16,926	
	合 計				188,958	算出数量 1,000 式
	単 価		式		188,958	
*** S単 - 2号 ***						
S63003	現地調査計画(定点調査)の作成(水路トンネル) 設計労務(直接人件費内業)		式		1,000	歩A 当たり算出
				時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.95人				
	5)技師Bの人数	0.95人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04004	技師(A)					
		0.950	人	59,600	56,620	
R04005	技師(B)					
		0.950	人	48,500	46,075	
	合 計				102,695	算出数量 1,000 式
	単 価		式		102,695	
*** S単 - 3号 ***						
S63003	健全度評価の見直し(水路トンネル) 設計労務(直接人件費内業)		式		1,000	歩A 当たり算出
				時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.25人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.82人				
	5)技師Bの人数	0.90人				
	6)技師Cの人数	1.23人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師					
		0.250	人	66,900	16,725	
R04004	技師(A)					
		0.820	人	59,600	48,872	
R04005	技師(B)					
		0.900	人	48,500	43,650	
R04006	技師(C)					
		1.230	人	40,300	49,569	
	合 計				158,816	算出数量 1,000 式
	単 価		式		158,816	
*** S単 - 4号 ***						
S63003	機能保全計画の見直し(水路トンネル) 設計労務(直接人件費内業)		式		1,000	歩A 当たり算出
				時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	

事業名		国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名		菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務				
業務別業務名		設計業務				
コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	1.20人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	1.70人				
	5)技師Bの人数	1.95人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師		1.200	人	66,900	80,280
R04004	技師(A)		1.700	人	59,600	101,320
R04005	技師(B)		1.950	人	48,500	94,575
	合計					算出数量 1.000 式
	単価			式		276,175
	*** S単 - 5号 ***					
S63003	機能診断 線の構造物(水管橋)			式		1.000 式
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	歩A 当たり算出
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	7.29人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	16.81人				
	5)技師Bの人数	16.00人				
	6)技師Cの人数	6.47人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師		7.290	人	66,900	487,701
R04004	技師(A)		16.810	人	59,600	1,001,876
R04005	技師(B)		16.000	人	48,500	776,000
R04006	技師(C)		6.470	人	40,300	260,741
	合計					算出数量 1.000 式
	単価			式		2,526,318
	*** S単 - 6号 ***					
S63007	外業作業(業務準備)の移動に係る技術者の基準日額			式		1.000 式
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	歩A 当たり算出
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.81人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	1.07人				
	5)技師Bの人数	0.96人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師 外業		0.810	人	66,900	54,189
R04004	技師(A) 外業		1.070	人	59,600	63,772
R04005	技師(B) 外業		0.960	人	48,500	46,560
	合計					算出数量 1.000 式
	単価			式		164,521
	*** S単 - 7号 ***					
S63007	外業作業(問診調査)の移動に係る技術者の基準日額			式		1.000 式
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	歩A 当たり算出
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.40人				
	5)技師Bの人数	0.42人				
	6)技師Cの人数	0.00人				

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務

業務別業務名: 設計業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	7)技術員の数	0.00人				
R04004	技師(A) 外業	0.400	人	59,600	23,840	
R04005	技師(B) 外業	0.420	人	48,500	20,370	
	合計				44,210	算出数量 1.000 式
	単価		式		44,210	
	*** S単 - 8号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)		回		1,000	歩A 当たり算出
	打合せ(設計業務基準日額) 一般工程,着手前・最終,1.00人,1.00人,0.00人,0.00人,0.5日,0.16日			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工程 2)打合せ	一般工程 着手前・最終				
	3)設計用主任技師人数	1.00人				
	4)設計用技師(A)人数	1.00人				
	5)設計用技師(B)人数	0.00人				
	6)設計用技師(C)人数	0.00人				
	7)打合せ日数	0.500日				
	8)往復移動日数	0.160日				
R04003	主任技師	0.660	人	66,900	44,154	
R04004	技師(A)	0.660	人	59,600	39,336	
	合計				83,490	算出数量 1.000 回
	単価		回		83,490	
	*** S単 - 9号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)		回		1,000	歩A 当たり算出
	打合せ(設計業務基準日額) 一般工程,中間,0.00人,1.00人,1.00人,0.00人,0.5日,0.16日			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工程 2)打合せ	一般工程 中間				
	3)設計用主任技師人数	0.00人				
	4)設計用技師(A)人数	1.00人				
	5)設計用技師(B)人数	1.00人				
	6)設計用技師(C)人数	0.00人				
	7)打合せ日数	0.500日				
	8)往復移動日数	0.160日				
R04004	技師(A)	0.660	人	59,600	39,336	
R04005	技師(B)	0.660	人	48,500	32,010	
	合計				71,346	算出数量 1.000 回
	単価		回		71,346	
	*** S単 - 10号 ***					
S63011	打合せ(設計旅費・交通費)		回		1,000	歩A 当たり算出
	打合せ(設計旅費・交通費) 一般工程,着手前・最終,通勤により打合せ,,,一般交通機関,0日,, L < 100km (100km未満)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工程 2)打合せ内容	一般工程 着手前・最終				
	3)主任技師配置人員	1人				
	4)技師A配置人員	1人				
	5)技師B配置人員	0人				
	6)技師C配置人員	0人				
	7)打合せ日数	0.50日				
	8)往復移動日数	0.16日				
	9)宿泊区分 12)交通機関区分	通勤により打合せ 一般交通機関				
	13)高速道路往復料金(税別)	0円				
	14)鉄道往復1人当料金(税別)	0円				
	15)バス往復1人当料金(税別)	562円				
	16)船舶往復1人当料金(税別)	0円				
	17)航空往復1人当料金(税別)	0円				
	18)ライトバン使用日数	0日				

事業名		国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名		菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務				
業務別業務名: 設計業務						
コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	20)往復移動距離区分	L < 100km (100km未満)				
P54307	バス料金 消費税抜き	2.000	人	562	1,124	
	合計				1,124	算出数量 1.000 回
	単価		回		1,124	
	*** S単 - 11号 ***					
S63011	打合せ (設計旅費・交通費)		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ (設計旅費・交通費) 一般工程,中間,通勤により打合せ,一般交通機関,0日, L < 100km (100km未満)					時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0
	1)設計工程	一般工程				
	2)打合せ内容	中間				
	3)主任技師配置人員	0人				
	4)技師A配置人員	1人				
	5)技師B配置人員	1人				
	6)技師C配置人員	0人				
	7)打合せ日数	0.50日				
	8)往復移動日数	0.16日				
	9)宿泊区分	通勤により打合せ				
	12)交通機関区分	一般交通機関				
	13)高速道路往復料金 (税別)	0円				
	14)鉄道往復1人当料金 (税別)	0円				
	15)バス往復1人当料金 (税別)	562円				
	16)船舶往復1人当料金 (税別)	0円				
	17)航空往復1人当料金 (税別)	0円				
	18)ライトバン使用日数	0日				
	20)往復移動距離区分	L < 100km (100km未満)				
P54307	バス料金 消費税抜き	2.000	人	562	1,124	
	合計				1,124	算出数量 1.000 回
	単価		回		1,124	
	*** S単 - 12号 ***					
S63018	設計外業(業務準備) 旅費・交通費		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	旅費交通費 (設計外業日帰用) ライトバン,4日,2時間					時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0
	1)交通機関区分	ライトバン				
	2)高速道路往復料金 (税別)	0円				
	3)鉄道往復1人当料金 (税別)	0円				
	4)バス往復1人当料金 (税別)	0円				
	5)船舶往復1人当料金 (税別)	0円				
	6)航空往復1人当料金 (税別)	0円				
	7)ライトバン使用日数の入力	4日				
	8)時間区分	2時間				
	9)設計用技師長外業日数	0.000日				
	10)設計用主任技師外業日数	3.000日				
	11)設計用技師A外業日数	4.000日				
	12)設計用技師B外業日数	4.000日				
	13)設計用技師C外業日数	0.000日				
	14)設計用技術員外業日数	0.000日				
M28121	ライトバン[ガソリン 二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	4.000	日	1,650	6,600	
P34001	ガソリン JIS2号 レギュラースタンド	21.600	L	166	3,586	
	合計				10,186	算出数量 1.000 式
	単価		式		10,186	
	*** S単 - 13号 ***					
S63018	設計外業(問診調査) 旅費・交通費		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	旅費交通費 (設計外業日帰用) ライトバン,3日,2時間					時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0
	1)交通機関区分	ライトバン				
	2)高速道路往復料金 (税別)	0円				
	3)鉄道往復1人当料金 (税別)	0円				
	4)バス往復1人当料金 (税別)	0円				
	5)船舶往復1人当料金 (税別)	0円				
	6)航空往復1人当料金 (税別)	0円				

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業					
業務名	菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務					
業務別業務名: 設計業務						
コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	7)ライトバン使用日数の入力	3日				
	8)時間区分	2時間				
	9)設計用技師長外業日数	0.000日				
	10)設計用主任技師外業日数	0.000日				
	11)設計用技師A外業日数	2.000日				
	12)設計用技師B外業日数	3.000日				
	13)設計用技師C外業日数	0.000日				
	14)設計用技術員外業日数	0.000日				
M28121	ライトバン[ガソリンエンジン 二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	3.000	日	1,650	4,950	
P34001	ガソリン JIS2号 レギュラースタンド	16.200	L	166	2,689	
	合計				7,639	算出数量 1.000 式
	単価		式		7,639	
	*** S単 - 14号 ***					
S63023	電子納品版業務報告書作成		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	電子納品版業務報告書作成 1. A - 4_800_10cm_0			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)報告書部数(部)	1.000		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)規格区分	A - 4				
	3)枚数区分(枚)	800		深夜時間:0.0		
	4)厚さ区分	10cm				
	5)CD-R枚数(枚)	0.000				
P43496	報告書焼付代(コピー) A - 4以下 800枚	1.000	部	10,200	10,200	
P43544	簡易加除式ファイル A 4縦型幅10cm(チューブ・パイプファイル)	1.000	冊	789	789	
P43602	CD-R CD-R(記録面色素フタロシアニン)700MB	0.000	枚	47	0	
	合計				10,989	算出数量 1.000 式
	単価		式		10,989	
	*** S単 - 15号 ***					
S65501	機能診断 線の構造物		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	機能診断 線の構造物 4.750km,水路トンネル			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)設計対象延長	4.750km		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)対象工種	水路トンネル		深夜時間:0.0		
	3)1.業務準備	計上する				
	4)2-1.事前調査資料調査	計上する				
	5)2-2.事前調査問診調査	計上する				
	6)3.施設機能の検討	計上する				
	8)5.性能低下要因の推定	計上する				
	9)6.水利・水理機能検討	計上する				
	10)9.詳細調査計画立案	計上しない				
	11)10.健全度評価	計上しない				
	12)11.性能低下予測	計上する				
	13)12.管理水準の設定	計上する				
	14)13.機能保全対策の検討	計上する				
	15)14.機能保全コストの算定	計上する				
	16)15.機能保全計画の策定	計上しない				
	17)16.農業水利ストック情報データ入力・登録	計上する				
	18)17.点検取りまとめ	計上する				
	19)1個別補正業務準備	1.00				
	20)2-1個別補正資料調査	1.00				
	21)2-2個別補正問診調査	1.00				
	22)3個別補正施設機能の検討	1.00				
	23)4個別補正施設の影響度評価	1.00				
	24)5個別補正性能低下要因の推定	1.00				
	25)6個別補正水利・水理機能検討	1.00				
	26)9個別補正詳細調査計画立案	1.00				
	27)10個別補正健全度評価	1.00				
	28)11個別補正性能低下予測	1.00				
	29)12個別補正管理水準の設定	1.00				
	30)13個別補正機能保全対策の検討	1.00				
	31)14個別補正機能保全コストの算定	1.00				
	32)15個別補正機能保全計画の策定	1.00				
	33)16個別補正ストック情報データ入力・登録	1.00				
	34)17個別補正点検取りまとめ	1.00				
R04003	主任技師 内業	6.370	人	66,900	426,153	
R04004	技師(A) 内業	15.980	人	59,600	952,408	

令和7年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務

特別仕様書

第 1 章 総 則

(適用範囲)

第 1-1 条

令和 7 年度国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務の施行にあたっては、農林水産省農村振興局制定「設計業務共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）」によるほか、同仕様書に対する特記及び追加事項は、この特別仕様書によるものとする。

(目 的)

第 1-2 条

本業務は、国営土地改良事業「菊池台地地区」で造成された、東部幹線水路（水路トンネル、水管橋）について機能診断を実施し、過年度策定した機能保全計画の見直しの検討を行うものである。

(場 所)

第 1-3 条

本業務において対象とする場所は、熊本県菊池市地内で、別添位置図に示すとおりである。

(土地の立ち入り等)

第 1-4 条

作業実施のための土地の立ち入り等は、共通仕様書第 1-16 条によるが、発注者の許可無く土地の踏み荒らし、立木伐採等行った場合に対する保証は、受注者の責任において処理するものとする。

(履行確実性評価の達成状況の確認)

第 1-5 条

本業務の受注にあたり、調査基準価格を下回る金額で受注した場合には、履行確実性評価の審査で提出した追加資料について、業務実施状況を踏まえた実施額に修正し、これを裏付ける資料とともに、業務完了検査時に提出するものとする。その上で、提出された資料をもとに以下の内容について履行確実性評価の達成状況を確認し、その結果を業務成績に反映させるものとする。

なお、業務完了検査時まで提出されない場合には以降の提出を受け付けず、業務成績評定に厳格に反映させるものとする。

- (1) 審査項目 a) ～c) において、審査時に比較して正当な理由なく必要額を下回った場合
- (2) 審査項目 d) において、審査時に比較して正当な理由なく再委託額が下回った場合
- (3) その他、業務計画書等に示された、実施体制、実施手順、工程計画が正当な理由なく異なる等、業務実務体制に関する問題が生じた場合
- (4) 業務成果品のミス、不備 等

(一般事項)

第 1-6 条

業務請負契約書及び共通仕様書に示す以外の一般事項は、次のとおりである。

- (1) 受注者は、作業実施の順序、方法等は監督職員と綿密な連絡を取り、作業の円滑な進捗を図るものとする。

(管理技術者)

第 1-7 条

- 1 管理技術者は、共通仕様書第 1-6 条第 3 項によるものとし、農業土木技術管理士、農業水利施設機能総合診断士以外の業務に該当する技術部門・選択科目は次のとおりである。

資 格	技術部門	選択科目
技術士	総合技術監理	農業－農業農村工学 農業－農業土木 建設－鋼構造及びコンクリート
	農業	農業農村工学、農業土木
	建設	建設－鋼構造及びコンクリート
博士	当該業務に関連する学術部門	
シビルコンサルティングマネージャー	農業土木	
	鋼構造及びコンクリート	

2 予算決算及び会計令第 85 条の基準に基づく価格（以下、「調査基準価格」という。）を下回る価格で契約した場合には、管理技術者は屋外で行う調査の実施に際して現場に常駐するとともに、作業日毎に業務の内容を監督職員に報告しなければならない。

なお、管理技術者が現場での常駐場所を定めた場合、あるいは変更した場合は監督職員に報告することとする。

(担当技術者)

第 1－8 条

担当技術者は、共通仕様書第 1-8 条によるものとする。

(配置技術者の確認)

第 1－9 条

共通仕様書第 1-11 条における業務組織計画の作成及び共通仕様書第 1-12 条に基づく技術者情報の登録にあたっては、次によるものとする。

- (1) 受注者は、業務計画書の業務組織計画に配置技術者の所属・役職及び担当する分担業務を明確に記載するものとする。なお、変更業務計画書において、業務組織計画を変更する際も同様とする。
- (2) 農業農村整備事業測量調査設計業務情報サービスへの技術者情報の登録は、業務計画書の業務組織計画において位置付けられた技術者を登録対象とする。

(保険加入)

第 1－10 条

受注者は、共通仕様書第 1-3 条に記載されている保険に加入している旨を業務計画書に明示しなければならない。また監督職員から請求があった場合は、保険加入を証明する書類を提示しなければならない。

第 2 章 作業条件

(適用する図書)

第 2－1 条

本業務の基本的事項に関しては、次に示す図書によるものとする。他の図書を適用する場合は、監督職員の承諾を得るものとする。

番号	名 称	発 行 所	制定(改訂)年月
1	農業水利施設の機能保全の手引き	(一社) 農業土木事業協会	令和5年4月
2	農業水利施設の機能保全の手引き 「水路トンネル」	農林水産省農村振興局 整備部設計課	平成28年8月
3	農業水利施設の機能保全の手引き 「パイプライン」	〃	平成28年8月
4	農業水利施設の長寿命化のための手引き	〃	平成27年11月

(作業条件)

第2-2条

本業務の実施にあたっては、以下の事項に留意をして作業を進めるものとする。

- (1) 作業の実施にあたっては、事前に作業方法及び具体的な工程計画を立案し、監督職員と十分打合せを行い手戻りが生じないように留意しなければならない。
- (2) 本業務の実施において生じた第三者との紛争で受注者の責に帰す事項は、受注者の責任において処理しなければならない。
- (3) 現地調査を行う時期は下記に示す非かんがい期を予定しているが、施設内へ立入る日程等、詳細については監督職員と打合せた後、施設管理者との調整を実施するものとする。

施設名	作業予定期間	備考
水路トンネル及び水管橋	令和7年5月及び 令和7年11月～12月	期別最大取水量 6/11～10/10 1.942m ³ /s 10/11～翌年の6/10 6.031m ³ /s

- (4) 水路トンネルは落水状態を想定しているが、作業上支障となる状態が発生した場合は監督職員と協議する。
- (5) 現地調査作業を行う場合は、労働安全衛生法等の諸法令を遵守して行うものとする。
- (6) 現地調査の結果、新たに仮設等が必要となった場合は監督職員と協議する。

(対象施設)

第2-3条

本業務で実施する対象施設は次のとおりである。

なお、詳細については別紙1「対象施設一覧表」による。

- (1) 東部幹線水路 L=11.87km (分水槽、出口スタンド延長除く)
上記のうち、下記施設を対象とする。
 - ・水路トンネル L= 4.75km
 - ・水管橋 L= 0.27km

(参考図書)

第2-4条

本業務で参考にする図書は、共通仕様書第2-1条によるほか次表によるものとする。

番号	図書・資料名	発行	制定(改定)年月
1	コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針-2022-	(公社) 日本コンクリート工学	令和4年6月
2	コンクリート診断技術 '24	〃	令和6年3月

番号	図書・資料名	発行	制定(改定)年月
3	コンクリート標準示方書（設計編）	（公社）土木学会	令和5年3月
4	コンクリート標準示方書（施工編）	〃	令和5年9月
5	コンクリート標準示方書（維持管理編）	〃	令和5年3月
6	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル（計画編）（案）	農林水産省農村振興局整備部設計施工企画調整室	平成30年3月
7	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル（水路トンネル編）（案）	〃	平成30年3月
8	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル（パイプライン編）（案）	〃	平成30年3月

（貸与資料等）

第2-5条

貸与資料は次のとおりである。

分類	資料名	数量
報告書	平成20年度 国営造成水利施設保全対策指導事業 菊池台地地区幹線水路等機能保全計画検討業務 報告書	1式
報告書	平成21年度 広域基盤整備計画調査 熊本地域整備計画構想検討業務 報告書	1式
報告書	平成26年度 国営施設機能保全事業 菊池台地地区長寿命化計画取りまとめ業務 報告書	1式
報告書	平成30年度 広域基盤整備計画調査 菊池台地地区造成施設調査検討業務 報告書	1式
報告書	令和元年度 広域基盤整備計画調査 菊池台地地区施設長寿命化計画等調査検討業務 報告書	1式
現況関係資料	国営菊池台地農業水利事業 東部幹線水路施設管理図	1式
現況関係資料	食料供給広域基盤確立対策 広域基盤整備計画書 熊本地域	1式
その他	その他業務実施上、監督職員が必要と認める資料	1式

また、上記以外に必要な資料がある場合は監督職員と協議するものとする。

（参考図書及び貸与資料の取扱い）

第2-6条

第2-4条、第2-5条に示す参考図書及び貸与資料の取扱いは、次のとおりとする。

- （1）参考図書及び参考資料の記載事項で相互に矛盾がある場合、又は解釈に疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。
- （2）参考図書は設計作業時点の最新版を用いることとし、改定された場合は、監督職員と協議するものとする。
- （3）貸与資料は、原則として初回打合せ時に一括貸与するものとし、監督職員から請求があった場合のほか、完了検査までに一括返納しなければならない。

第 3 章 作業内容

(作業項目及び数量)

第 3-1 条

本業務における作業項目及び数量は、次の作業項目表のとおりである。

なお、詳細は【別紙 2】「現地調査作業項目内訳表」及び【別紙 3】「機能診断及び機能保全計画作業項目内訳表」のとおりである。

作業項目	数量	備考
1. 現地調査	1 式	
2. 機能診断	1 式	
3. 機能保全計画の見直し	1 式	

(現地作業内容)

第 3-2 条

現地調査の詳細は次のとおりである。また、作業は施設管理者と調整の上で行う。

(1) 現地踏査

事前調査で得られた情報を参考に、遠隔目視により変状の有無や変状箇所の特特定を行い、踏査結果を整理する。踏査結果を踏まえ、現地調査（定点調査）を行う調査地点、調査項目等を選定、検討する。

(2) 現地調査（定点調査）

現地調査（定点調査）選定結果に基づき、近接目視と定量計測を行う。

なお、現地調査の対象区間は「水路トンネル」、「水管橋」とし、サイホン、暗渠等水路内が満水で内面調査が行えない区間、スタンド等転落、滑落が予想される区間、背面の影響で水位が高く調査が困難なトンネル区間、その他調査に危険が伴うと判断される区間等については調査対象外とする。

ただし、現地調査の対象区間は、監督職員と協議する。

(3) 漏水量調査

過年度調査（平成 30 年度菊池台地地区造成施設調査検討業務等）を参考に調査方法を検討する。

(4) 現地調査の実施にあたっては、事前に作業方法及び具体的な工程計画を立案し、安全管理を含めた作業計画を作成して監督職員及び監督職員が指示する者と十分打合せを行い、手戻りのないよう留意しなければならない。

(5) 調査結果は、農業水利ストック情報データベースの登録情報データ外部入出力機能（施設機械の一次診断結果にあたっては一次診断情報入力用 Excel ファイル）を利用して記録するものとし、記録した電子データは成果物に含むものとする。

(設計作業の留意点)

第 3-3 条

業務の実施にあたって、特に留意する点は次のとおりとする。

(1) 試験試料採取及び破壊検査は構造物への影響が最小限となるよう配慮するとともに、監督職員と詳細な位置について打合せのうえ決定するものとする。

なお、採取後は、既存施設の機能を損なわないよう無収縮モルタル等により復旧を行うものとする。

(2) 現地調査において著しく機能が低下している施設を発見した場合は、遅滞なく監督職員へ報告するものとする。

(3) 現地踏査等施設の状況確認においては、できる限り施設管理者の同行により意見・助言を受けて実施するものとする。

(4) 対策内容の検討にあたっては、当該施設が必要な機能及び安全で所要の耐久性を有するとともに維持管理、施工性及び経済性について考慮しなければならない。

- (5) 電算機を使用する場合は、計算手法及びアウトプット等の様式について事前に監督職員の承諾を得るものとする。
- (6) 第2-4条、第2-5条及び共通仕様書に示す参考図書、貸与資料や受注者が有する資料等を参考にした場合は、その出典を明示するものとする。
- (7) 機能保全対策シナリオの検討にあたっては、最新の新素材、新工法などの技術情報の収集に努めた上で、比較検討を行う。新技術や新工法等の選定にあたっては、農業農村整備民間技術情報データベース（NNTD）及び新技術情報システム（NETIS）等を積極的に活用しなければならない。
 - ・農業農村整備民間技術情報データベース（NNTD）については、
<https://www.nn-techinfo.jp> を参照。
 - ・新技術情報システム（NETIS）については、
<https://www.netis.mlit.go.jp/NETIS> を参照。
- (8) 対象施設、関連施設及び設備が機能診断を完了している場合は、同成果の内容を確認するとともに十分に活用し効率的な作業を行う。
- (9) 対策内容の検討にあたっては、事業への適用性や施設管理者の管理体制等を総合的に検討する。
- (10) 数量計算にあたっては、「工事工種の体系化」に基づき作成するものとする。なお、「工事工種の体系化」に該当しない工種や用語については、監督職員と協議するものとする。
 - ・「工事工種の体系化」は https://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kouzi_kousyu/ を参照。
- (11) 農業水利ストック情報データの作成は、機能診断情報記入用 Excel ファイルによる入力のほか、登録情報データ外部入出力機能等を適宜使用することを基本とするが、作業方法、内容等について監督職員と十分協議を行った上作業を行うものとする。なお、作成した電子データは成果物に含むものとする。

(業務写真における黒板情報の電子化)

第3-4条

黒板情報の電子化は、被写体画像の撮影と同時に業務写真における黒板の記載情報の電子的記入を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化を図るものである。

受注者は、業務契約後に監督職員の承諾を得たうえで黒板情報の電子化を行うことができる。黒板情報の電子化を行う場合、受注者は、以下の(1)から(4)によりこれを実施するものとする。

(1) 使用する機器・ソフトウェア

受注者は、黒板情報の電子化に必要な機器・ソフトウェア等（以下、「機器等」という。）は、電子的記入ができるもので、かつ「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト（CRYPTREC 暗号リスト）」（URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」）に記載する基準を用いた信性憑確認機能（改ざん検知機能）を有するものを使用するものとする。

(2) 機器等の導入

ア 黒板情報の電子化に必要な機器等は、受注者が準備するものとする。

イ 受注者は、黒板情報の電子化に必要な機器等を選定し、監督職員の承諾を得なければならない。

(3) 黒板情報の電子的記入に関する取扱い

ア 受注者は、(1)の機器等を用いて業務写真を撮影する場合は、被写体と黒板情報を電子画像として同時に記録してもよいこととする。

イ 本業務の業務写真の取扱いは、「電子化写真データの作成要領（案）」によるものとする。

なお、上記アに示す黒板情報の電子的記入については、「電子化写真データの作成要領（案）6写真編集等」に示す「写真編集」には該当しないものとする。

ウ 黒板情報の電子化を適用する場合は、従来型の黒板を写し込んだ写真を撮影する必要はない。

(4) 写真の納品

受注者は、3に示す黑板情報の電子化を行った写真を、業務完了時に発注者へ納品するものとする。

なお、受注者は納品時に URL(https://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html)のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアを用いて、黑板情報を電子化した写真の信憑性確認を行い、その結果を監督職員へ提出するものとする。

(5) 費用

機器等の導入に要する費用は、従来の黑板に代わるものであり、直接経費に含まれる。

第4章 打合せ

(打合せ)

第4-1条

共通仕様書第1-10条による打合せについては、主として次の段階で行うものとする。
また、初回及び最終回の打合せには、管理技術者が出席するものとする。

- 初回 作業着手の段階
- 第2回 中間打合せ（現地調査（定点調査）計画作成時）
- 第3回 中間打合せ（機能診断評価時）
- 第4回 中間打合せ（機能保全計画検討時）
- 最終回 報告書原稿作成段階

なお、業務を適正かつ円滑に実施するために、受注者の業務担当は、業務打合せ記録簿を作成し、上記の打合せの都度内容について、監督職員と相互に確認するものとする。

打合せ方法については、対面方式から Web 方式に変更する場合がある。

ただし、調査基準価格を下回る価格で契約した場合には、上記に定める打合せを含め、受注者の責により管理技術者の立ち会いの上で打合せ等を行うこととし、設計変更の対象とはしない。

その際、管理技術者は、共通仕様書第1-11条に定める業務計画書に基づく業務工程等の管理状況を報告しなければならない。

第5章 成果物

(成果物)

第5-1条

成果物を共通仕様書第1章第1-17条に基づき作成し、次のものを提出しなければならない。

- 1 成果物の電子媒体（CD-R等）正副2部
- 2 成果物の出力1部（電子媒体の出力、市販のファイル綴じで可）

(成果物の提出先)

第5-2条

成果物の提出先は、次のとおりとする。

熊本県熊本市南区江越1丁目4-17

九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所 熊本支所

第6章 契約変更

(契約変更)

第6-1条

業務請負契約書第17条から第20条に規定する発注者と受注者による協議事項は、次のとおり

とする。

- (1) 第2-2条に示す「作業条件」に変更が生じた場合。
- (2) 第2-3条に示す「対象施設」に変更が生じた場合。
- (3) 第3-1条に示す「作業項目及び数量」に変更が生じた場合。
- (4) 第4-1条に示す「打合せ」に変更が生じた場合。
- (5) 第5-1条に示す「成果物」に変更が生じた場合。
- (6) 履行期間の変更が生じた場合。
- (7) 関係機関等対外的協議等により業務計画等に変更が生じた場合。
- (8) その他

第7章 定めなき事項

(定めなき事項)

第7-1条

この特別仕様書に定めなき事項又はこの業務の実施にあたり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督職員と協議するものとする。

【別紙1】対象施設一覧表

施設名		規格	延長	備考
東部幹線水路				
トンネル	1号トンネル	標準馬蹄形 2R=2,200mm	1.80km	
	2・3号トンネル	標準馬蹄形 2R=2,200mm	0.43km	
	4号トンネル	標準馬蹄形 2R=2,200mm	0.53km	
	5号トンネル	標準馬蹄形 RC 2R=2,000mm	0.12km	現地調査（定点調査）対象外。
	6号トンネル	標準馬蹄形 2R=2,200mm	1.87km	
	計			4.75km
パイプライン		SP φ1,200mm	3.17km	業務対象外。
		SP φ2,000mm	3.50km	業務対象外。
	計		6.67km	業務対象外。
暗渠	1号暗渠	2R=2,000mm	0.06km	業務対象外。
サイホン	1号サイホン	SP φ2,100mm	0.12km	業務対象外。
水管橋	1号水管橋	SP φ2,000mm	0.04km	
	2号水管橋	SUS φ2,000mm	0.16km	
	3号水管橋	SP φ2,000mm	0.03km	
	4号水管橋	SP φ2,000mm	0.04km	
	計			0.27km
水路延長 合計			11.87km	分水槽、出口スタント [※] 延長除く。
附帯施設				
分水槽	1号～2号		2箇所	業務対象外。
排泥弁工	1号～11号	φ200mm～φ400mm	11箇所	業務対象外。
空気弁工	1号～24号	φ150mm	24箇所	業務対象外。
その他	出口スタント [※]		1箇所	業務対象外。
附帯施設 合計			38箇所	

【別紙2】現地調査作業項目内訳表

1. (線的構造物) 水路トンネル

項目	内容及び実施の必要性	数量
1-1. 現地踏査	事前調査で得られた情報を参考に、調査対象施設の変状の有無や変状箇所の特定制を行い、踏査結果を整理する。踏査結果を踏まえ、現地調査(定点調査)を行う調査地点、調査項目等を選定、検討する。	L=4.75km
2-1. 現地調査		
①近接目視	現地踏査により決定した調査地点において、目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、変状等を定量的に把握(ひび割れ・欠損・変形等計測、周辺観察を含む)するとともに、スケッチを作成する。	3,280.19m ² (1号トンネル 258.84m ²) 86.28m ² ×3ハレル (2・3号トンネル 258.84m ²) 86.28m ² ×3ハレル (4号トンネル 269.63m ²) 86.28m ² ×2ハレル 97.07m ² ×1ハレル (6号トンネル 2492.89m ²) 78.36m ² ×30ハレル 26.12m ² ×1ハレル 9.50m ² ×1ハレル 63.94m ² ×1ハレル 5.96m ² ×1ハレル ※1ハレルは12m。
②コンクリート強度推定調査	リバウンドハンマーによりコンクリート表面を打撃し、反発度を測定することで強度を推定する。 ・水路トンネル：3測点/地点 (測点：上部、左右側面) (地点：上流・中間・下流)	36測点 (1号トンネル 9測点) 3測点×3地点 (2・3号トンネル 9測点) 3測点×3地点 (4号トンネル 9測点) 3測点×3地点 (6号トンネル 9測点) 3測点×3地点
③中性化深さ調査	コンクリートドリルにより削孔し、その削粉を用いて中性化深さを測定する。(NDIS 3419) ・水路トンネル：3箇所/地点 (測点：上部、左右側面) (地点：上流・中間・下流)	36箇所 (1号トンネル 9箇所) 3箇所×3地点 (2・3号トンネル 9箇所) 3箇所×3地点 (4号トンネル 9箇所) 3箇所×3地点 (6号トンネル 9箇所) 3箇所×3地点

2. (線的構造物) 水管橋

項目	内容及び実施の必要性	数量
2-1. 現地踏査	事前調査で得られた情報を参考に、調査対象施設の変状の有無や変状箇所の特特定を行い、踏査結果を整理する。踏査結果を踏まえ、現地調査(定点調査)を行う調査地点、調査項目等を選定、検討する。	L=0.27km
2-2. 現地調査		
①近接目視	現地踏査により決定した調査地点(下部工含む。)において、目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、変状等を定量的に把握(ひび割れ・欠損・変形等計測、周辺観察を含む)するとともに、スケッチを作成する。	1,682.16m ² (1号水管橋 252.46m ²) 6.28m×40.20m (2号水管橋 990.98m ²) 6.28m×157.80m (3号水管橋 171.13m ²) 6.28m×27.25m (4号水管橋 267.59m ²) 6.28m×42.61m
②コンクリート強度推定調査	リバウンドハンマーによりコンクリート表面を打撃し、反発度を測定することで強度を推定する。 ・水管橋(下部工): 2測点/施設 (測点: 上流、下流)	8測点 2測点/施設×4施設
③中性化深さ調査	コンクリートドリルにより削孔し、その削粉を用いて中性化深さを測定する。(NDIS 3419) ・水管橋(下部工): 2測点/施設 (測点: 上流、下流部)	8箇所 2測点/施設×4施設
④管厚及び塗膜厚計測	水管橋の板厚及び膜厚について、超音波厚さ計及び膜厚計を使用して測定する。 ・水管橋(上部工): 2測点/施設 (測点: 上流、下流部)	8測点 2測点/施設×4施設

3. その他

項目	内容及び実施の必要性	数量
3-1. 漏水調査 (流量観測: 電磁流量計)	観測可能な地点で電磁流速計を用いて流量観測を行い、トンネル区間の漏水の有無及び漏水量を把握する。 (電磁流量計による計測) ・竜門ダム取水地点	1測点
3-1. 漏水調査 (流量観測: 超音波流量計)	観測可能な複数地点で超音波流量計などを用いて流量観測を行い、トンネル区間の漏水の有無及び漏水量を把握する。 (超音波流量計) ・1号水管橋: 1号トンネル区間 ・2号水管橋: 2・3、4号トンネル区間 ・3号水管橋: 6号トンネル区間	3測点

【別紙 3】機能診断作業項目内訳表

1. (線の構造物)水路トンネル

項目	内容	数量
1-1. 業務準備	調査対象施設の周辺の地形、現況、諸施設について調査し、業務実施計画書策定のために必要な現地調査を行う。	1 式 (L=4.75km)
1-2. 資料調査		
①資料調査	施設完成時の設計図書及び施設管理記録、地域特性に係る資料等を収集・整理し診断評価の基礎材料とする。 なお、資料収集に際しては農業水利ストック情報データベースを活用し、設備の経歴、使用環境、地域特性等の情報を収集、整理する。	1 式 (L=4.75km)
②問診調査	施設管理者等から日常利用、操作等の不具合・変状箇所・事故履歴・補修履歴等について聞き取り調査を行い、施設機能に関する課題、問題点を把握・整理する。	1 式 (L=4.75km)
1-3. 施設機能の検討	資料調査及び問診調査を基に、安全性、水利的な機能及び環境面からの要求機能について整理し、診断の重点を設定するほか、要求機能を満足するための要求性能を設定する。	1 式 (L=4.75km)
1-4. 施設の影響度評価	事前調査及び現地踏査結果を基に、施設の影響度を評価する。	1 式 (L=4.75km)
1-5. 性能低下要因の検討	事前調査及び現地踏査結果を基に、性能低下の推定を行う。また、環境（水質又は周辺環境）条件による性能低下の可能性があるか推定する。	1 式 (L=4.75km)
1-6. 現地調査（定点調査）計画の作成	事前調査、現地踏査及び施設の影響度等を勘案し、現地調査（定点調査）の範囲・調査地点の密度及び調査手法を設定する。	1 式 (L=4.75km)
1-7. 水利・水理機能検討	「漏水量調査」結果等を基に、現況の概略水利・水理機能検討を行う。	1 式 (L=4.75km)
1-8. 健全度評価	調査結果に基づき、調査単位毎に施設の健全度の判定を行う。	1 式 (L=4.75km)
1-9. 性能低下予測	性能低下要因推定結果、健全度判定結果等を踏まえ、現況施設の性能判定を行うとともに、性能管理指標を選定し、現地条件に適合する性能低下予測手法により、性能低下予測を行う。	1 式 (L=4.75km)
1-10. 管理水準の設定	性能低下予測の結果を基に、構造の安全率、施設の影響度及び経済性を踏まえ、各施設の管理水準を設定する。	1 式 (L=4.75km)
1-11. 機能保全対策の検討	施設別に現地状況に適合する対策工法を複数選定し、選定された対策工法・実施時期・実施範囲を組み合わせる対策シナリオを複数作成する。	1 式 (L=4.75km)
1-12. 機能保全コストの算定	対策シナリオ毎に機能保全コストを算定し、比較する。 (コスト算定のために必要な数量計算、設計図面作成を含む。)	1 式 (L=4.75km)

<p>1-13. 機能保全計画の見直し</p>	<p>機能保全コストを最小とすることを基本とした上で、施設重要度を踏まえたリスクや、環境との調和、維持管理の容易さ等、多様な側面も総合的に検討し、令和元年度に策定した機能保全計画の見直しを行う。</p> <p>なお、状況監視等を継続する必要があると認められる施設については、経年変化状況把握などのための施設監視計画を作成する。また、作成にあたっては、「農業水利施設の機能保全の手引き（参考資料編）4. 施設監視計画に基づく施設監視の実施方法」によるものとする。</p>	<p>1式 (L=4.75km)</p>
<p>1-14. 農業水利ストック情報データの入力及び登録</p>	<p>上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。</p>	<p>1式 (L=4.75km)</p>
<p>1-15. 点検とりまとめ</p>	<p>各作業項目の成果物の点検、とりまとめ及び報告書の作成を行う。</p>	<p>1式 (L=4.75km)</p>

2. (線的構造物) 水管橋

項目	内容	数量
2-1. 業務準備	調査対象施設の周辺の地形、現況、諸施設について調査し、業務実施計画書策定のために必要な現地調査を行う。	1式 (L=0.27km)
2-2. 資料調査		
①資料調査	施設完成時の設計図書及び施設管理記録、地域特性に係る資料等を収集・整理し診断評価の基礎材料とする。 なお、資料収集に際しては農業水利ストック情報データベースを活用し、設備の経歴、使用環境、地域特性等の情報を収集、整理する。	1式 (L=0.27km)
②問診調査	施設管理者等から日常利用、操作等の不具合・変状箇所・事故履歴・補修履歴等について聞き取り調査を行い、施設機能に関する課題、問題点を把握・整理する。	1式 (L=0.27km)
2-3. 施設機能の検討	資料調査及び問診調査を基に、安全性、水利的な機能及び環境面からの要求機能について整理し、診断の重点を設定するほか、要求機能を満足するための要求性能を設定する。	1式 (L=0.27km)
2-4. 施設の影響度評価	事前調査及び現地踏査結果を基に、施設の影響度を評価する。	1式 (L=0.27km)
2-5. 性能低下要因の検討	事前調査及び現地踏査結果を基に、性能低下の推定を行う。また、環境（水質又は周辺環境）条件による性能低下の可能性があるか推定する。	1式 (L=0.27km)
2-6. 現地調査（定点調査）計画の作成	事前調査、現地踏査及び施設の影響度等を勘案し、現地調査（定点調査）の範囲・調査地点の密度及び調査手法を設定する。	1式 (L=0.27km)
2-7. 水利・水理機能検討	「漏水量調査」結果等を基に、現況の概略水利・水理機能検討を行う。	1式 (L=0.27km)
2-8. 健全度評価	調査結果に基づき、調査単位毎に施設の健全度の判定を行う。	1式 (L=0.27km)
2-9. 性能低下予測	性能低下要因推定結果、健全度判定結果等を踏まえ、現況施設の性能判定を行うとともに、性能管理指標を選定し、現地条件に適合する性能低下予測手法により、性能低下予測を行う。	1式 (L=0.27km)
2-10. 管理水準の設定	性能低下予測の結果を基に、構造の安全率、施設の影響度及び経済性を踏まえ、各施設の管理水準を設定する。	1式 (L=0.27km)
2-11. 機能保全対策の検討	施設別に現地状況に適合する対策工法を複数選定し、選定された対策工法・実施時期・実施範囲を組み合わせ対策シナリオを複数作成する。	1式 (L=0.27km)
2-12. 機能保全コストの算定	対策シナリオ毎に機能保全コストを算定し、比較する。 (コスト算定のために必要な数量計算、設計図面作成を含む。)	1式 (L=0.27km)

2-13. 機能保全計画の見直し	<p>機能保全コストを最小とすることを基本とした上で、施設重要度を踏まえたリスクや、環境との調和、維持管理の容易さ等、多様な側面も総合的に検討し、令和元年度に策定した機能保全計画の見直しを行う。</p> <p>なお、状況監視等を継続する必要があると認められる施設については、経年変化状況把握などのための施設監視計画を作成する。また、作成にあたっては、「農業水利施設の機能保全の手引き（参考資料編）4. 施設監視計画に基づく施設監視の実施方法」によるものとする。</p>	1 式 (L=0.27km)
2-14. 農業水利ストック情報データの入力及び登録	上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。	1 式 (L=0.27km)
2-15. 点検とりまとめ	各作業項目の成果物の点検、とりまとめ及び報告書の作成を行う。	1 式 (L=0.27km)

令和7年度国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
菊池台地地区東部幹線水路機能保全検討業務

図面目録

図面 番号	図 面 名 称	枚数	備考
1	菊池台地地区一般計画平面図	1	
計		1	



受益 面積 (ha)	田	: 1,313
	畑	: 3,286
	樹園地	: 80
	計	: 4,682